

できない言い訳を目標達成の道筋に変えるにはどうするか 《行政課題解決セミナー》

一目標を達成できない言い訳なら、環境変化、外部要因、突発事象など、すぐにいくつも思い浮かぶ。目標の期限が迫っているときは、なおさらではないでしょうか。

でも「言い訳ばかり言うな」と言ったら、目標は達成できるでしょうか。できない言い訳がある中で、それでも目標を達成する方法は本当はないのでしょうか？

TOCには、できない言い訳を活用して、目標達成可能な道筋を考える知識体系があります。今回は実際の事例を活用して、その威力を体感してもらおうと思っています。(講師メッセージより)

《ワークショップレポート》

今回のワークショップでは、行政課題「温暖化対策を進めるためには」について議論しました。気候変動対策に関して、「温室効果ガスを2030年までに2013年度比46%削減」、「2050年までにカーボンニュートラルを実現」という高い目標を国が設定する中、県の温暖化対策を進める現場では、この目標に対してどのような方法で進めていけばよいか、モヤモヤする状況でした。

どうやったらいいかわからない問題については、「できない言い訳」を言ってもらおう。なぜならば、人間はネガティブなものに敏感だから。

岸良さんの問題解決のワークショップが始まりました。できない言い訳、障害を上げていきます。ここでのポイントは重要なものをあげていくこと。重要な障害を上げた後、その中で一番大事な障害(問題の1番ピン)について、その障害が解消された状況を言葉にする。その状況で、他の障害が解消されるか確認してきます。

問題の1番ピンを見つけて、そこにたっぷり時間をかけた方が良い。

講師・ファシリテーター 岸良裕司



株式会社Goldratt Japan CEO。
全体最適のマネジメントサイエンスであるTOC (Theory Of Constraint:制約理論) をあらゆる産業界、行政改革で実践。最先端のTOC知識体系の、「楽しく」、「わかりやすく」、「実践的」な講義と、参加者をワークに集中させるファシリテーションから、たくさんの学びが得られると大好評である。

「目標が高くて、どうやって達成したらいいか想像もつかない、途方にくれてしまう」そんな状況での質問を岸良さんが教えてくれました。

そんな時は、「ここまでしないと到底無理だ、というアイデアはありませんか?」という質問があります。

この質問により今までの延長線上で考えないようになり、既成概念を打破した様々なアイデアが飛び交い、議論が加速しました。

さまざまなアイデアの中から、「筋のいいもの」、「初めにやること」を選んでいきます。

高い目標には、あれもこれも手を打っていても到底達成できない。こういうときは、大きい所、上位2割に集中することで、8割の成果が出る(パレートの法則)。

という岸良さんからのアドバイスもあり、「CO₂排出量の大きなところに集中して削減を検討する」というアイデアが筋が良さそうだとまとめて、ワークショップが終わりました。

《今回の学び》

TOCの問題解決の公式を知り、その使い方を訓練することで、解決すべきコアの問題を見つけることや、周りを巻き込んで良い雰囲気を作ることが誰でもできるようになることが実感でき、この公式をもっと世に広めていくことで、日本が良くなるかと期待が持てました。



《他の発表》

- ◆ 「TOCを導入した満足度の高いミーティングのすすめ
「安定給水の確保によりお客様の信頼と安心を向上」へ向けたTOCの活用 東京都水道局 岩船さん

全体最適の行政マネジメント研究会について

- ・ 全体最適のマネジメント理論TOC(制約理論)を活用し、「お金を使わず知恵を使って」を合言葉に、行政、民間の参加者が垣根を越えて、日本をよくするために知恵を出し合い、問題解決に取り組むNPO法人。そのセミナーは、身近な行政課題を題材に、TOCを実践的に学べる場となっている。
- ・ 次は2021年12月4日は3年に1回のシンポジウムです。是非ご参加ください!!